

## 最新ゲノム解析からみえた！ くも膜下出血—脳動脈瘤—と遺伝子の親密な関係

展示責任者 井ノ上逸朗(東海大学医学部総合医学研究所)



ヒトゲノム計画の完了によってヒトに共通する全ての塩基配列が明らかになってから約6年たった現在、顔かたちや性格、病気のかかりやすさの違いを生む「ゲノムの個人差」がクローズアップされています。その中でももっとも盛んに研究されているのが「一塩基多型」＝「SNP(スニップ)」です。

高血圧や糖尿病に代表される生活習慣病は、主に喫煙や飲酒、食生活、運動不足など生活習慣の積み重ねが原因になって発症することが多いのですが、SNPの型によっても発症する危険度が増加することがあります。つまり、あるSNPをもっている人は2倍病気にかかりやすいといったことです。

私たちの研究室は、生活習慣病のなかでも特に、脳の血管にできるこぶ「脳動脈瘤」に注目して研究しています。脳動脈瘤はそれだけでは悪さをしませんが、ひとたび破裂してしまうと、致死率の高い



脳底動脈の分岐部にできた脳動脈瘤を3D-CT(3 dimensional computer tomography)で撮影した画像

「くも膜下出血」を引き起こします。まさに時限爆弾のようなものです。私たちは海外の研究施設と共同し大規模な解析を行った結果、脳動脈瘤の発症しやすさに関するSNPを発見しました。このゲノムひろばでは脳動脈瘤とSNPの関係について最新の研究成果をご紹介します。

